

細木病院
特別
インタビュー

細木病院でしか得られない経験がある 内科専門研修を終えた医師の声



インタビューに応じる松本医師

細木病院では、内科専門研修（後期研修）プログラムを開始し、若手医師の育成に力を入れています。今回、当院で半年間の研修を終えた松本顕医師に、細木病院を選んだ理由や研修で得た学び、当院の魅力についてお話を伺いました（開催日：2026年4月25日（土）インタビュー：キャリアコンサルタント平岡美香氏）。

—当院を研修先に選ばれた理由を教えてください。

内科専門医取得には複数施設での研修が必要で、どこで学ぶか考えたときに最初に思い浮かんだのが細木病院でした。高知医療センターでは高度急性期医療を中心に経験を積みましたが、「公立病院では出会いにくい患者さんの診療にも触れたい」という思いがありました。細木病院は急性期から慢性期、緩和ケア、在宅まで幅広い患者さんがおり、これまでとは違う領域を学べる点が魅力でした。また、上司と院長のご縁もあり、以前から院長と面識があったことも後押しになりました。

—院長にはどんな印象を持っていましたか。

一言でいうと“カリスマ”。話し方や立ち居振る舞いからリーダーとしての存在感がにじみ出ていて、実際に外来で患者さんに向き合う姿を見て「こんな医師になりたい」と感じました。

—実際に研修してみて、どんな経験が得られましたか。

細木病院での半年間は、まさに「幅広い内科診療」を体験できる期間でした。誤嚥性肺炎、尿路感染症、内分泌疾患、COPD、アルコール性肝炎など、一般内科のコモンディージーズを自分で診ることができました。救急車の受け入れも多く、脳出血や不整脈など急性期の初期対応も経験できました。

また、急性期治療後に自宅へ戻れない患者さんの退院支援やリハビリ調整、介護認定、ケアマネとの連携など、患者さんの“その後”を含めたトータルケアに深く関わったことは大きな学びでした。緩和病棟での診療や訪問診療にも参加し、在宅医療の現場にも触られました。

—診療で難しさを感じた場面はありましたか。

高度急性期病院と比べると検査や薬の選択肢に制限

があり、限られた環境で診療を組み立てる工夫が必要でした。また、ご高齢の患者さんが多いため、「どこまで治療を行うか」の判断も重要で、体力や予後、ご本人・家族の価値観を踏まえた意思決定が求められました。こうした経験は臨床能力を大きく高めてくれたと思います。

—相談できる体制は整っていましたか。

指導医の山本先生、総合診療科の矢野先生に頻繁に相談でき、困ったときに一人で抱え込むことはありませんでした。ケアミックス型病院でスタッフ同士の距離が近く、多職種連携がとてもスムーズだったことも印象的です。

—印象に残っている症例はありますか。

嚥下障害で誤嚥を繰り返す患者さんのケースです。耳鼻科、言語聴覚士、栄養士、リハビリスタッフと連携し、食事形態の調整や訓練で改善した方もいれば、手術を含めた選択肢を検討した方もいました。多職種の力が患者さんの生活を支えることを強く実感しました。

—細木病院の魅力はどこにあると感じますか。

救急から在宅まで一連の流れを経験できる点です。急性期治療だけでなく、リハビリ、療養、緩和、在宅まで患者さんの長い経過を“最初から最後まで”診られる病院は多くありません。症例の幅広さ、相談しやすい環境、丁寧な指導体制は若い医師にとって大きな魅力だと思います。

—若い医師へのメッセージをお願いします。

若いうちはどん欲に、誠実に学んでほしいと思います。ベッドサイドでの経験はすべてが財産になります。そして、患者さんや家族の気持ちに寄り添う姿勢を忘れないこと。専門性を磨くことは大切ですが、一度“外の世界”を学ぶ期間を持つことも大きな意味があります。細木病院は幅広い経験を積みたい方にとっても向いていると思います。



細木病院北館屋上での松本医師と平岡氏のインタビュー風景

（臨床支援課 課長 門田美紀）

